

絵を見て、まちがいを10カ所  
見つけてね。  
正解者のうち、抽選で5人に  
図書カードをプレゼント  
します。



**応募方法**

はがきまたはファクスに①答え  
(どちらかの絵に○をつける)②住  
所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話  
番号⑥広報紙の感想、意見など  
を書いて秘書広報課(〒443-8601  
FAX 66-1192)へ。当選者と答え  
は、広報がまごおり7月号に掲載  
します。

**締切** 5月13日金

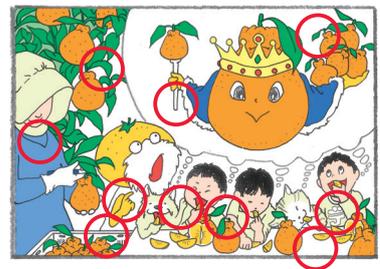
**3月号当選者**

- 鳥居 誠吾(竹谷町)
- 平田 征也(本町)
- 平野 直子(三谷町)
- 宮瀬 洋子(豊岡町)
- 渡辺めぐみ(形原町)



画:とうふねこ座  
市川雅子

**3月号の答え**



**俊成と描く短歌**

遠く離れた誰かに思いを伝えるとき、  
皆さんはどのように伝えますか? 現代で  
は、電話やメール、SNSですぐに伝え  
ることができますね。

通信手段が少ない今より古い時代に  
は、思いを五・七・五・七・七音にのせ  
て送る短歌の風習がありました。蒲郡開  
発の祖とされる藤原俊成卿も、多くの短  
歌を残した偉人です。

ゆうされば のべのあきかぜ みにしみて  
うずらなくなり ふかくさのさと

伴侶を思つて鳴く鶉の姿と、秋風の冷た  
さを身に迫る寂しさと重ね合わせたこの句  
は、俊成自信作と言われているようです。  
頭の中に情景が浮かんできませんか?

さあ、今年も俊成を顕彰する蒲郡俊成  
短歌大会が始まるようです。

みかん仙人「私も参加するぞよ。のう、  
俊成さん」

みかん仙人が呼びかけると俊成も現れ、  
それぞれの心を詠みます。春の竹島から、  
風流な声が聞こえてくるようですね。